

「住吉の語り部になりたい」 シリーズ第7回

料亭つたも主人・深田正雄

2011年10月25日

住吉の名門・・・今は?? 住吉神社石柵寄進者より

三業者の街住吉には戦前から近年まで頑張っていた老舗名門が多数ありました。今回は料亭灘屋、踊りの西川鯉三郎さん、雀をどり・古橋新三郎さんをご紹介しますまいりましょう。

灘屋・山岡竹次郎：住吉2丁目の中心、数年前まで営業されていたもっとも広い間口の老舗料亭灘屋さんを御存知の方は多くいらっしゃると思います。創業者の山岡竹次郎氏のお嬢様が東京三田の天ぷら屋さんで修行中に慶応ボーイの伊藤泰弘さんが見初めたと聞いております。伊藤さんはパンの長栄軒のオーナー家長男で後継者ですが、掛け持ちで灘屋の経営もやるという条件でご結婚されたとのこと。冬はふぐ料理、夏は天ぷら、芸者衆も毎日出入りする繁盛店でした。住吉の町内会長を務めた泰弘社長は熱心に地域開発に尽力され、現在の住吉のアーケード設置や平成9年にナディアパーク開業にともない住吉景観地区協定を実施、254枚の歩道用陶板絵タイルを埋設するなど奮闘されておりました。現在、御令息が料亭から転じて新ビルを建設、シダックスさんに大型カラオケハウスとして賃貸されております。あんかけスパの元祖？スパゲッティヨコイ（住吉2丁目三桃ビル2F）さんは山岡さんの親戚筋、塩屋ビルを経て旧灘屋ビル2Fを経て現在地で営業中！昭和末期に敷地北側に4階建てビルを建設、地下に洒落たワインバー、1Fには天ぷらカウンター「灘」、2Fスパゲッティヨコイ、そして上層階はお住まいであった記憶がありません。



タイル写真2枚： ふぐと魚、慶応マークのワイン1997

西川鯉次郎：住吉3丁目で唯一戦災を逃れた蔵がありました踊りの名門・西川流家元宅。土蔵の周りには和風庭園、洒落た門から竹囲いの道の奥にはお稽古場もありましたが現在はハワイアンレストランLUAO東のコインパーキングとなっています。

西川流鯉三郎の右腕といわれた鯉次郎氏（1921年生れ）は日本舞踊「鯉水会」を主宰。住吉の伝統芸能の中心として戦前戦後にわたりお稽古場から邦楽の音が絶えることはありませんでした。奥様の「あやめ」さんは昭和50年美空ひばり御園座公演に準主役で出演するなど、舞踊を超えて活躍。鯉次郎との間に生まれた三子はいずれも西川流名取。長男・鯉之丞は舞踊家、俳優としても活躍、三男ひろしは鳴物住田長十郎として活躍、二男長次郎は母上の名をとった・天ぷら店「あやめ」を数年前まで経営されていました。独特の濃い天つゆでの「えび天井」の味が忘れられません。

雀をどり・古橋新三郎：(住吉3丁目・栄3-12-3 レジャーセンター跡地)

江戸時代末期の安政三年（1856年）に始まったういろやお餅、団子などの菓子屋さんで本町筋南・門前町の宝餅と称したお店、看板に雀踊の図柄が街の評判となり、後に「雀踊」と屋号を変えたと大津通り「雀おどり總本店」のホームページに記されています。

空襲で門前町本店が罹災し、戦後、南大津通り松坂屋前に移転、同時に弟の新三郎は暖簾わけで住吉に出店、また、番頭や親族が雀踊を伝承して「今同系に属する店舗は十指余有り盛業」であったと昭和27年の店主のコメントにあります。長年、料亭蔦茂の茶菓子ではお世話になっていましたが、いつのまにかレジャービルになっていました。



石柱写真2枚：灘屋・山岡竹次郎、西川鯉次郎と雀をどり・古橋新三郎

次号に続く